

I 調査の概要

1. 研究の目的

現在、看護系大学のめざましい増加、大学の社会人入学や編入学の増加などから、大学への進学状況は大きく変化をしている。それに伴って、看護職の大学への進学は増加しているといわれている。また、以前から、看護職の大学への進学希望は高いといわれている。しかしながら、看護職の進学希望者の実態についてはほとんど把握されていない。

その様な状況から、1993年10月に実施した第8回目の本協会会員を対象とした看護職員実態調査では、「進学希望」を特別テーマのひとつとして設定し、実施をした。

本稿では、看護職の大学進学希望者の特徴を把握し、今後看護職の大学への進学についてを広げることを検討する際の基礎的資料、および看護職を大学へ受け入れる際の資料とすることを目的として、前述した調査の「進学希望」に関する項目の再分析を行う。

2. 調査方法（詳細は、「日本看護協会調査研究報告No.45」を参照）

① 調査対象

1993年6月末現在の日本看護協会会員351,066名から、職能（保健婦(士)・助産婦・看護婦(士)・准看護婦(士)）別に無作為に抽出した10,863名。

② 調査方法

調査票を対象者の勤務先に、対象者個人宛に郵送し、本人が記入後、同封の返信用封筒で直接本会調査研究室に返送してもらう。

③ 調査時期

1993年10月

④ 回収状況

有効回収票5,692（回収率52.4%）票

⑤ 分析対象

本稿では、看護職の4年制大学への進学希望者の特徴を明確にするために、看護系以外の4年制大学及び看護系4年制大学へ「進学したい」者と、「進学を考えていない」者を取り上げ両グループを比較し、「卒業した」者、「在学中」の者、「無回答・不明」の者は除いた（表0を参照）。

なお、分析対象者の内訳は、看護系以外の4年制大学へ「進学したい」者1,757名（33.1%）、「進学を考えていない」者3,545名（66.9%）、合計5,302名、看護系4年制大学へ「進学したい」者1,590名（28.3%）、「進学を考えていない」者3,694名（65.7%）、合計5,284名である。

表0 看護系以外の4年制大学及び看護系4年制大学への進学希望

	分 析 対 象		分 析 除 外		合 計
	進学したい	進学を考えていない	卒業した・ 在 学 中	無 回 答 不 明	
看護系以外の 4年制大学	1,757 (31.3)	3,545 (63.1)	186 (3.3)	133 (2.4)	5,621 (100.0)
看 護 系 4年制大学	1,590 (28.3)	3694 (65.7)	46 (0.8)	291 (5.2)	5621 (100.0)

⑥ 調査担当

本会普及開発部調査研究室（林 幸範）。